

博物館実習とは何をするのか



海と博物館研究所
高田 浩二

平成19年6月

これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議

「新しい時代の博物館制度の在り方」

博物館実習への提言

- ①大学と博物館の連携・協力を緊密に
- ②実習内容を精査する
- ③参考となる実習内容を例示
- ④博物館側の負担にも配慮

平成21年4月 博物館法 施行規則の改正

「博物館実習のガイドライン」作成



- 目安となる実習内容
- 留意事項
- 博物館実習の修得

博物館法施行規則第1条

大学において修得すべき博物館に関する**科目の1つ**

登録博物館、博物館相当施設で実習すること

「博物館に関する科目」2009年改正

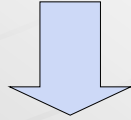
	科目名	単位数
1	生涯学習概論	2
2	博物館概論	2
3	博物館経営論	2
4	博物館資料論	2
5	博物館資料保存論	2
6	博物館展示論	2
7	博物館情報・メディア論	2
8	博物館教育論	2
9	博物館実習	3

改正前
8科目
12単位



改正
9科目
19単位

広範囲にわたる専門的な事項について
理論的・体系的に学ぶ



これらの知識・技術・理論を生かして
現場で博物館資料を取り扱う。
利用者に対応する。

実践的な経験や訓練を積む

博物館実習の課題

- ①受け入れ体制が不十分（学生数に限界）
- ②大学、学生の態度や目的意識が千差万別（博物館に丸投げ状態）
- ③受け入れ側の負担大（日常業務の圧迫）
- ④期待に応える実習が提供できない

博物館実習

■学内実習

学内の実習施設で学ぶ。

■館園実習

- ①現場で実際に経験
- ②理念、設置目的、業務の流れへの理解
- ③資料の取り扱い、教育普及活動、
- ④来館者対応等、実務の一端を担う

学芸員としての責任感、社会意識を身につけ、博物館で働く心構えを涵養する

博物館・学芸員とは？

その役割・機能は？

お客様の立場で考える？

お客様は博物館へ何を求めているか？顧客の満足とは？

今の登録基準は？

第2条 定義

資料の**収集、保管**（育成を含む）し、**展示**して**教育的配慮**の下に一般**公衆の利用**に供し、その**教養、調査研究、レクレーション**等に資するための**事業**をおこない、あわせてこれらの資料の調査研究をすることを**目的**とする機関。

- ①この目的を達成するための**博物館資料**がある。
- ②**学芸員を有する**。
- ③目的を達成するための**建物、土地**がある。
- ④1年間で**150日以上開館**する。

学芸員の役割、仕事？

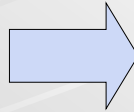
館園実習の目的

- 博物館資料の**収集、保管、展示、整理、調査研究、教育普及**等の学芸員の業務と博物館運営の実態、実務を体験することで理解する。
- 博物館の実務体験によって大学で学んできた博物館像を確認する。

（博物館実習ガイドライン）

何の視点で博物館を評価するか？
どんな博物館がすごい？

- 施設規模
- 入館者数
- 希少なコレクション
- 組織
- 調査、研究、教育



すべてに限界

博物館は誰のためにあるのか？
学芸員は誰のために働くにか？

- 来館者、利用者、市民
- 組織
- 職員、自分
- 学芸員
- 学術資料
- 家族、生活

プログラム例

	歴史系博物館
1	オリエンテーション、設備見学
2	展示教育に関する実習
3	管理業務に関する実習
4	学芸員の一日体験
5	教育・普及に関する実習
6	資料の取り扱いに関する実習
7	資料の収集に関する実習
8	資料の写真撮影、修復に関する実習
9	資料の展示に関する実習
10	資料の展示に関する実習、反省会

プログラム例

	美術館
1	オリエンテーション、設備見学
2	管理運営に関する実習
3	広報に関する実習
4	教育・普及（鑑賞）に関する実習
5	教育・普及（造形）に関する実習
6	作品の収集に関する実習
7	作品の取り扱い保存、修復に関する実習
8	収蔵品の展示に関する実習
9	収蔵品の展示に関する実習
10	作品の展示に関する実習、反省会

プログラム例

	動物園水族館
1	オリエンテーション、設備見学
2	飼育実習（動物・水族の観察）
3	飼育実習（水質・環境の管理）
4	飼育実習（調餌・給餌～魚類・鳥類）
5	飼育実習（調餌・給餌～哺乳・両生）
6	利用者アンケート調査
7	利用者アンケート調査
8	解説板、展示、企画に関する実習
9	解説板、展示、企画に関する実習
10	企画展示のプレゼン、反省会

プログラム例

	自然史系博物館
1	オリエンテーション、設備見学
2	コレクション、マネジメント理解
3	資料保存の方法に関する実習
4	植物資料の収集と保管に関する実習
5	展示・教育活動への理解
6	展示室における利用者の観察
7	展示解説に関する実習（プログラム）
8	展示製作に関する実習（展示パネル）
9	展示解説に関する実習（模擬解説）
10	学芸員による講義、反省会

プログラム例

	科学館
1	オリエンテーション、設備見学
2	情報公開と管理に関する実習
3	利用者に対応する実習
4	調査研究の方法に関する実習
5	展示の手法や技術に関する実習
6	展示の保守管理に関する実習
7	教育プログラムに関する実習
8	館内調査研究実習（テーマと手法）
9	館内調査研究実習（整理と分析）
10	展示の体験・見学実習、反省会

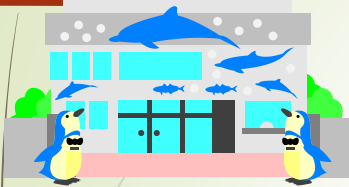
実習生の心得

- ✦ 博物館・学芸員の役割と使命を十分認識する。
- ✦ どんな仕事でも館の役に立つと思う。
- ✦ お客様に失礼がないように服装言葉遣い注意。
- ✦ 実習日誌は日記ではない反省と向上心を忘れない。
- ✦ 多くの職員からの指導に感謝する。
- ✦ 1日の体験の中に必ず学びを発見する。
- ✦ 判らないことや疑問は持ち越さない。
- ✦ 学んだことは自分だけの糧にしない。
- ✦ 団体行動であることを自覚し積極的にコミュニケーションを図る。

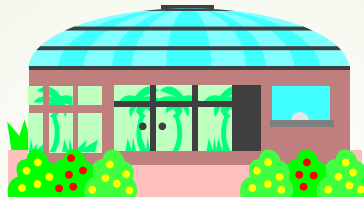
博物館実習学生受け入れ 1つの試み

海と博物館研究所
高田浩二

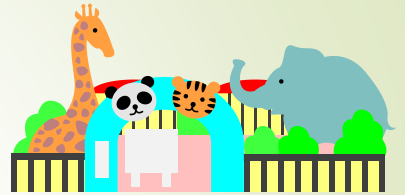
自然系博物館



水族館



植物園



動物園



自然史博



昆虫館



火山地質博

人文系博物館



美術館



歴史博物館



民俗資料館



民族学博物館



考古資料館



文学館

そもそも、博物館側が受け入れる大学の専門性を限定している

水族館：生物系、理学系、海洋系、水産系、農学系、獣医師系。

動物園：生物系、農学系、獣医師系の大学。

自然史博：生物系、理学系、海洋系、水産系、農学系、獣医師系。

昆虫館：生物系、農学系、獣医師系の大学。

美術館：美術系、デザイン系、写真系、工芸系、陶芸系。

歴史・民俗博：人文系、歴史系、文学系、哲学系、




多様な博物館

多様な学生、多様な興味

学芸員教育は多様か？

博物館実習でどこまで
多様性に対応できるか？
どこまで専門性の会得が可能か？



多様な博物館種

わずか10日間で何を教えるのか
わずか10日間で何を学ぶのか
わずか10日間で何に気づかせるのか

学生はマス（大人数）
多様な専門性の学生
そもそも大学は何を期待しているのか？


大学内で受講したことが、わずか
10日間の学外実習で体現、体験できるか？

しかも、学芸員の技術、身につけておくべき
スキルは多様、多彩である・・・。

そこで、
他の大学生の能力から
学び取ることができる工夫をすることにした。


海の中道海洋生態科学館（水族館）
を希望する（受け入れる）学生は多様。
※意図的に複数の専門の異なる実習生を受け入れ。

九州産業大	デザイン科、写真科など 芸術系
福岡大学	地質、生物、環境 理系
九州大学	生物、水産、農学 理系
福岡教育大学	教員養成 教育系



混在する多様な学生の専門性を
あえて、活用した実習プログラム

- ①講義 水族館学
- ②館内 発話観察
- ③特別展企画会議
- ④特別展企画制作
- ⑤特別展企画プレゼン



理系 科学的な情報提供
デザイン系 イメージを絵にする
教育系 適切な情報発信に改善

2つのチームを作り
学生間のコミュニケーションにより
成果物を完成する過程で
学生のもつ能力を認め合い
学芸員にはそれらの能力の
総合力が重要であることに気づく

改正前科目	No	科目名	単位数	改正科目	No	科目名	単位数
新旧比較表	1	生涯学習概論	1単位		1	生涯学習概論	2単位
	2	博物館概論	2単位		2	博物館概論	2単位
	3	博物館経営論	1単位		3	博物館経営論	2単位
	4	博物館資料論	2単位		4	博物館資料論	2単位
					5	博物館資料保存論	2単位
					6	博物館展示論	2単位
	5	博物館情報論	1単位		7	博物館情報・メディア論	2単位
	6	視聴覚教育メディア論	1単位		8	博物館教育論	2単位
7	教育学概論	1単位		9	博物館実習	3単位	
8	博物館実習	3単位					
8科目12単位				9科目19単位			

実習の構成は

①講座

博物館概論

博物館経営論

②館内発話観察

博物館経営論

③特別展企画

博物館展示論

博物館教育論

博物館情報メディア論

大学講義の実践の場



海の不思議カルタ

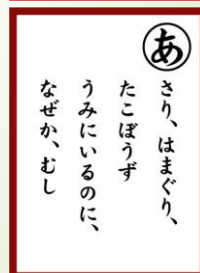
朝日新聞連載

(平成17年9月～平成18年9月)



東海大学出版会 19年11月発行

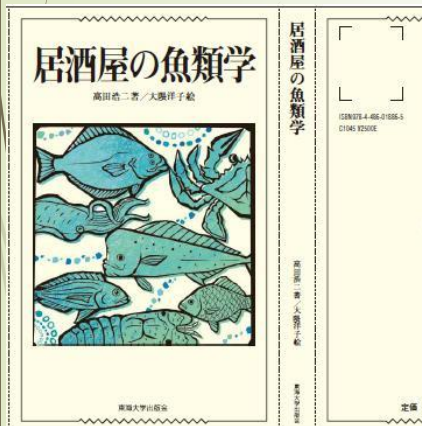
鯛、蛤、鰯坊主、海に居るのになせか虫
アサリ、ハマグリ、タコ、いずれも海の生物だ。しかし、彼らを漢字で書くと、すべて虫の字がついている。これ以外にも、蛸、蝦、鮑、蛎、蟹など、けっこう海には「虫」がすむ。なぜだろうと思ったことはないだろうか。彼らに共通するのは、みんな海底で暮らす生物であること。漢字発祥の地、中国では土の中から出てくる生物を「虫」の中間に分類したことが原因なのだ。となると、家で「こらこら」している君も、虫になっちゃうかも？





出版連載「居酒屋の魚類学」

22年10月1日 東海大学出版会



私には普通のレストランで、普通のレストランには魚類学があるけれど、今日は、魚類学が盛り込まれていないので、魚類学が盛り込まれたおみやげを探してみよう。おみやげは魚類学が盛り込まれたおみやげを探してみよう。

スケットウタラ



私には普通のレストランで、普通のレストランには魚類学があるけれど、今日は、魚類学が盛り込まれていないので、魚類学が盛り込まれたおみやげを探してみよう。おみやげは魚類学が盛り込まれたおみやげを探してみよう。

シシャモ

プチプチ卵のないオスはどこへ

シシャモ



課題

- 大学が博物館に丸投げ
- 学生の興味は多様
- 学生の能力は多様
- 大学で何を学んだか見えない
- 共同での学びに活用
- 学芸員たることを学べるのか
- 1館のわずか10日で何ができるか

提言

博物館・学芸員の多様性を学ぶ
博物館実習を

福山大学に於ける学芸員養成

生命工学部海洋生物科学科

資格関係の講座について

福山大学HP <http://www.fukuyama-u.ac.jp/marine-bio/contents/career.html>

The screenshot shows the website for the Department of Marine Bio-Science at Fukuyama University. The page is titled "海洋生物科学科 学芸員養成" and "資格・就職・進学". It lists various qualifications and career paths for graduates. The "めざす資格" (Target Qualifications) section includes "学芸員" (Museum Specialist), which is circled in red. Other qualifications listed include "高等学校教諭一種免許状(理科・水産)", "食品衛生管理者", and "食品衛生監視員". The "めざす進路" (Target Career Paths) section lists various industries and roles such as "水産関連企業・団体", "食品メーカー", "化学・薬品メーカー", "環境・検査関連企業", "アクアリウム関連企業", "公務員", "教員", and "大学院進学".

大学概要 | 学部・大学院 | 入試・入学情報 | 教育 | キャンパスライフ | 就職・資格取得 | 研究・産学連携 | 留学・国際交流

海洋生物科学科 > 学科紹介 > 資格・就職・進学

生命工学部 To front page

海洋生物科学科

学科メニュー

- 学科トップ
- カリキュラム
- 授業紹介
- 教員紹介
- 資格・就職・進学
- TOPICS
- 3つのポリシー
- 学部トップ
- 学科オリジナルメニュー
- 学科ニュース

共通教育

オリジナルサイトへ Original site

Original Site

海洋生物科学科

オリジナルサイト

海洋生物科学科 学科紹介

Department of of Marine Bio-Science

資格・就職・進学

めざす資格

- 学芸員
- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 食品衛生管理者
- 食品衛生監視員

海洋生物科学科で学んだ知識・技術が取得に役立つ資格

- 潜水士
- 水産改良員及員
- 水産業普及指導員
- 資料製造管理者
- 生物分類技術者検定2級、3級
- 小型船舶操縦免許
- 鮟鱇魚飼育・管理士

めざす進路

- 水産関連企業・団体
- 食品メーカー
- 化学・薬品メーカー
- 環境・検査関連企業
- アクアリウム関連企業
- 公務員
- 教員
- 大学院進学

資格・就職・進学

めざす資格

- ・ **学芸員**
- ・ 高等学校教諭一種免許状（理科・水産）・中学校理科
- ・ 食品衛生管理者・食品衛生監視員

海洋生物科学科で学んだ知識・技術が取得に役立つ資格

- ・ 潜水土
- ・ 水産業改良普及員・水産業普及指導員
- ・ 飼料製造管理者
- ・ 生物分類技術者検定 2 級、3 級
- ・ 小型船舶操縦免許
- ・ 観賞魚飼育・管理士

めざす進路

水産関連企業・団体・食品メーカー・化学・薬品メーカー
環境・検査関連企業・アクアリウム関連企業
公務員・教員・大学院進学

学科で開講している講座で資格取得が可能

①教職資格（別途ご案内：中学校理科、高等学校理科・水産） 下記資格との両立は困難。

②学芸員資格

博物館（水族館に限定しない）に興味関心があり、将来、博物館や博物館に関わる企業（展示開発、施工、運営など）に就職する際に有益となる国家資格。

別途に説明する必要教科（**9科目 21単位**）を全て取得が必要。

大学での講座で習得する場合が一般的。別途に文部科学省実施の国家試験なども。

③食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）

厚生労働省が行っている食品作業環境の衛生管理に関する国家資格。

飲食店、水産加工食品会社等の関連業界に有益。

以下の科目を履修習得すると講習が免除され任用資格を取得できる。

化学関係 3科目 生物化学関係 6科目 微生物学関係 2科目 公衆衛生学関係 2科目
その他関連科目（E群） 12科目

3年生後期までにE群と合計で全**25科目**開講し**40単位以上**の取得が必要。

学芸員資格との両立は頑張れば可能。

学芸員資格

■留意事項

- ・博物館の学芸員としての採用は極めて少ない（1～2％）。全国大学で約2万人ほどが毎年取得。
- ・博物館種を「水族館」だけに限定しないことが重要。動物園、科学館、自然史博物館等にも。
- ・資格を取得しても博物館に採用されるわけではない。教職と同じで採用されて初めて学芸員。
- ・公立館の場合は行政職採用試験、民間でも館の運営企業の採用試験も別途にある。
- ・博物館の学芸員として任用されるための資格であるが博物館関連企業の採用にも有益。
- ・全ての単位を修得しても一人前の学芸員となれるのではないため博物館理解教育と位置付けるべき。
- ・大半の科目は卒業や進級に必要な単位数には含まれない。
- ・博物館法改正により教科数・単位数が増加したため、他の資格（教職等）との両立が極めて困難。

資格取得には、以下の教科の単位を全て取得しなければならない。

2単位：15時限

博物館概論	2単位	博物館資料論	2単位	博物館資料保存論	2単位
博物館教育論	2単位	博物館展示論	2単位	博物館情報・メディア論	2単位
博物館経営論	2単位	生涯学習概論	2単位	博物館実習（学内・学外）	3単位（実習は4年次）
合計9教科	19単位	1つでも不足すると付与されないが貯金し卒業後に不足分を取得可能な場合も。			

海洋生物科学科は3年次から開講。2～3年生後期までに「その他関連科目8単位」も含め、十分な単位数を確保し本講座を履修できる余裕をもつこと。すべての一般科目を履修後、4年で実習履修が前提。稀に履修が4年次に繰り越す場合は就活や卒論との両立が困難。3年次内で一般科目の取得を推奨。

参考資料 その他関連科目について（理系学生の場合）

	科目名	単位数 選択	履修年次
その他 関連 科目	海洋動物分類学	2	1
	分析化学	2	2
	魚類解剖学	2	2
	基礎分子生物学	2	2
	海洋環境科学	2	2
	魚類の飼料と栄養	2	3
	魚介類の疾病と予防	2	3

※これらの中から8単位が必要。

厳しい教員の確保、学外の専門家（博物館従事者、博物館経験者、他大学教員）に依頼。

科目	学内教員	学外教員
博物館概論	理系専任	
博物館資料論	理系選任	文系学外
博物館資料保存論		理系学外、文系学外
博物館教育論		理系学外、文系学外
博物館展示論	理系専任	文系学外
博物館情報・メディア論	理系専任	理系学外
博物館経営論		理系学外、文系学外
生涯学習論		文系学外
博物館実習	理系専任	理系学外、文系学外

※履修学生は理系約30人、文系約20人（3年次）

赤字は集中講義

学芸員養成における今後の改革の観点（案）

■ 大学側

- ・ **教員の確保**：学内教員の限界、多様な学外教員の確保（兼業の課題等）を容易に。
- ・ **学外実習地の確保と質の向上**：学内教員の地道な人脈開拓、博物館との情報交流の場。
- ・ **教育指導方針**：博物館理解教育と位置付ける。博物館に就職後に正規の学芸員に育成。
- ・ **学内実習の質の向上**：実習室の充実と学外講師の充実。学外講師の人材センターを。

■ 博物館側

- ・ **博物館実習指導**：多様な専門性の学生の受け入れ、人材育成機関としての自覚。
- ・ **学芸員の採用**：大学教育では広く浅く学んでいる学生であると理解。
- ・ **学芸員の育成**：学芸員は採用後に専門性を育成する。学芸員養成の場に積極的に派遣。一定期間の博物館同士の異業種人事交流制度も。
- ・ **学芸員の専門性**：学芸員は研究者としてだけでなく教育者であると理解する育成。
- ・ **博物館の経営**：非常勤や年限契約は避け常勤化する。雇用の見直し。

■ 国（文化庁等）の取り組みや制度

- ・ **博物館登録**：多くの博物館がより博物館登録できる制度。反面、再審査制度も。
- ・ **学芸員養成**：大学の教科、単位は維持しながら、実習重視に。教員確保の人材センター。
- ・ **現職学芸員の要請**：多様な博物館との交流や講座、WSなどの充実と継続。

■ その他、一般行政、団体などの取り組みや制度

- ・ **博物館資料の提供**：保管、展示などの機能向上のため、個人や企業の資料受け入れ制度。
- ・ **博物館実習生、現職学芸員の養成**：企業研修、教員研修などの場での受け入れ。